



2022年7月1日発行
 (毎月1日発行)
 1984年8月15日第3種郵便物認可
 発行所 / (公財) 熊本YMCA
 〒860-8739
 熊本市中央区段山本町4-1
 Tel 096-353-6397代



熊本YMCA会長 吉本 貞一郎 さん

ボランティア会員として34年

熊本市南区にある熊本製綿所の代表を務める吉本貞一郎さんにはもう一つの肩書があります。それは「熊本YMCA会長」です。

益城町出身。父親がYMCAの簿記学校で学んでいた影響で、小学生の頃にYMCAのキャンプや少年学習に通っていたという吉本さん。29歳の時にYMCAを支える国際的な団体であるワイズメンズクラブに誘われたのが、ボランティア会員としてYMCAに関わるきっかけになりました。「YMCAはスタッフもボランティアも、関わる人たちの厚みがあって、皆で頑張るのが楽しかった」と当時を振り返ります。時には、意見が合わずにぶつかり合うことも。「でも、誰かがぶつぶつと文句を言えば、なだめてくれる人がいて、“いい人がたくさん集まっていた”という感じかな」と笑います。その後、ボランティア会員の代表である常議員も務め、会長に就任。YMCAでの働きは34年にわたります。

吉本さんが特に印象に残っているというのが1998年の熊本YMCA創立50周年記念行事です。ボランティアと職員からなる実行委員会を中心に、講演会やコンサート、チェンマラソンなどを開催しました。「当時、聖路加国際病院の理事長だった日野原重明さんを招いた講演会では、私が佐賀まで車で迎えに行ったりもしました。皆で力を併せて、一つのものを作り上げたという実感がありました」。

目指すのは皆が支え合う世界

YMCAが大切にしているもの

熊本YMCAは戦後の混乱期である1948年に設立。これまで職員とボランティアが共に手を携え、地域に根差した活動を行ってきました。近年は、一般企業もSDGsを謳って利益を地域に還元しようという機運が高まっています。しかし吉本さんは「企業とYMCAは立ち位置が全く違う」と語ります。

吉本さんがYMCAの存在理由を考える時に顧みるのが熊本YMCAの会則に記載されている以下の『目的』です。『キリスト教精神に基づき、熊本県下における青少年をはじめすべての人々の心身の健全な成長をはかるとともに、会員相互の交わりと協力により奉仕の精神を養い、会員の精神、知性及び身体の調和のとれた発達をはかり、もって民主的社会的発展と世界の平和に寄与する』。スポーツ、キャンプ、英会話スクールなどを通して、参加者の人格的成長を促すのがYMCA。利益を追求してその利益を地域に還元するのではなく、行う事業そのものに公益性があるのだと吉本さんは話します。「一般企業のステークホルダーは『どのくらい利益が出た』ということで喜びますが、YMCAは『YMCAに通う子どもにこんな変化があった』、『こんないいことをしてくれた』ということに皆が喜ぶんです。YMCAは子どもや若者たちの心の成長にアドバンテージがある。その効果は、すぐには現れなくとも子どもたちが成長した数年後に分かってもらえるはず」。

YMCA FOR ALL

「以前、YMCAに通っている子どもに、『学校に行くとお腹が痛くなるけれど、YMCAなら大丈夫』という子がいたんですよ。そういうことって本当にあるんですよ。YMCAが子どもたちの心のよりどころになればいい」。吉本さんの願いは、誰もがYMCAのプログラムに参加できるようになること。「フロストバレーのYMCAを訪問した際に『経済的な困難のある人たち300人がYMCAに通えるように』とありとあらゆる所に掲示をして募金活動に取り組む様子を目の当たりにしました。YMCAに通っている人たちはそれを見て、2人分の参加費を払うんです。熊本にも様々な理由で経済的困難のある人たちがたくさんいらっしゃいます。その人たちをどれだけサポートできるのか。募金活動の展開と拡大について考えていく必要があります」。

「必要とされる活動を続けていけば、支えようという人が現れてくれるもの」と話す吉本さん。「YMCAが目指している『ポジティブネットがある世界』とは、『皆が支え合う世界』のこと。YMCAで育った子どもたちが、そんな社会になるように貢献する大人になってくれたら嬉しいですし、その仕組みをつくれるのがYMCAだと思っています。『みつかる。つながる。よくなっていく。』というスローガンが実現できるように、会員の皆さんと、職員・リーダーや私たちボランティアと一緒に考えていきたいですね」。



2022年度熊本YMCA定時会員大会

Pickup

いのちを守り育む
 ウォーターセーフティ
 特集



YMCA水泳教室で着衣泳体験



「浮いて待つ」
 大人も着衣泳体験

近隣小学校の
 児童を対象に実施
 「みんな泳げる
 25m運動」



YMCA阿蘇キャンプは開設70周年を迎えます

3 11 15

YMCA阿蘇キャンプ
70周年記念特集 1

▲1952年8月2日にYMCA阿蘇キャンプの開所式を開催

◀1999年に完成した現在のメインロッジ

100周年に向けてさらなる歩みを

YMCA阿蘇キャンプ70周年実行委員長 藤本 義隆さん

YMCA阿蘇キャンプは、九州で初めての教育キャンプ場として1952年8月2日に開設されました。今日まで阿蘇地域の皆様をはじめ、多くの方々にお支えいただき、今年70周年を迎えます。

これまで多くのキャンパーやリーダー、ボランティア、スタッフが阿蘇キャンプから輩出されました。私も、リーダーとして多くの子どもたちとふれあう中で、子どもたちだけでなく、自分自身の成長を感じる事が出来ました。

近年では災害時のボランティアセンターや企業の研修の

場になるなど、YMCA阿蘇キャンプは時代のニーズに合わせて役割の幅を広げています。70周年実行委員会では、30年後の100周年に向けて、10年前に構築してきたグランドデザインを見つめ直し、持続可能な社会の実現に向けて、さらなる歩みを進めていきます。

今後様々なプログラムを主催すると共に、施設修繕にも取り組んでいきます。8月からは「YMCA阿蘇キャンプ70周年記念募金」も始まりますので皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。



左端が藤本さん

記念事業



実施中

阿蘇ファミリーキャンプ

SDGsをテーマに四季折々の自然にふれるプログラムを提供しているファミリーキャンプ。阿蘇キャンプ70周年として特別キャンプをシリーズで開催しています。

☎Tel 0967-35-0124



二重峠にて▲
(過去のファミリーキャンプの様子)



被災児支援

第9回あそぼうキャンプ

熊本地震や豪雨災害により心に不安を抱えた子どもたちに寄り添い、相互の交流を目的としたキャンプ。自然とふれる原体験やアニマルセラピーを体験します。

ホースセラピー▶



8月19日(金)~21日(日)



2023年3月(予定)

70周年記念式典

これまでのご支援、ご協力に感謝するとともに、70周年を迎えた喜びを分かち合うことを願い記念式典を開催します。



60周年記念式典の様子▲



8月~

募金活動

今後の野外教育事業の充実発展のために不可欠な事業資金として、「YMCA阿蘇キャンプ70周年記念募金」を実施します。

記念事業報告

阿蘇ファミリーキャンプシリーズ

SDGs!田んぼ編の2日間

70周年記念事業第1弾として阿蘇ファミリーキャンプ「SDGs!田んぼ編」を5月28日(土)~29日(日)に開催。阿蘇運営委員の五嶋義行さんの協力のもと、28日(土)にキャンプ参加者とグローバルキッズクラスの子どもたち総勢30名が田んぼで泥んこ遊びをしました。はじめは独特の感触に戸惑っていた子どもたちも、泥んこソリや徒競走、生き物観察、泥んこバレーをするうちに全身泥だらけに。濡れて冷えた体

はドラム缶風呂に浸かって暖をとりました。

29日(日)はキャンプ参加者に加え、ワイズメンズクラブとユースリーダー、YMCA学院日本語科の留学生が合流し、総勢39名で手植えによる田植えを行いました。目印のロープを張り続ける係、号令係、苗の補給係、疲れた子どもの対応係と、全員が見事なチームワークをみせ、作業をすること1時間半。最後の一行が終わると大きな拍手と歓声が上がりました。



YMCA NEWS 8月号以降も、阿蘇キャンプ70周年記念関連情報を順次お知らせします。

YMCA阿蘇キャンプに関するお問合せ Tel 0967-35-0124

宿泊や利用に関する
詳細はWebで



R | E | P | O | R | T

[5月27日⇒ 6月11日]

会員 新たなYMCA運動に向けて 定時会員大会を開催

16 | 17

2022年度熊本YMCA定時会員大会は、コロナ禍を鑑み、会場の本館に加えてZoomを活用したりリモートも併用し、131名の維持会員が参加しました。

第1部礼拝では日本バプテスト連盟東熊本キリスト教会牧師の三上充さんが「希望の伝統」と題して奨励。旧約聖書ゼファニア書の箇所を用い、紀元前より続く信仰の尊さと、主が常に私たちのうちにおられることを喜び、希望を見出すことを説かれました。第2部は、永年在籍者表彰と特別表彰をしました。第3部では、前年度の活動報告と決算、本年度の

事業計画と収支予算についての報告と、常議員の紹介をしました。また、「新たな地で展開するYMCA運動」と題して総主事の光永尚生さんが発表。熊本YMCAの歴史を紐解くとともに、YMCAが地域に根ざしながら世界とつながっていることを示し、新たなYMCA運動を展開することを述べました。

最後に参加者は小グループに分かれてそれぞれが考える「これからのYMCA運動」についてディスカッションし、それぞれの想いを語りました。

職員 辻健太郎



花の日 水前寺幼稚園

子どもたちが小学校を訪問

4 | 11

アメリカから始まったキリスト教の「花の日」。熊本YMCAでは、子どもたちが毎年、地域を訪れ、花と共に日頃の感謝の気持ちを届けています。

YMCA水前寺幼稚園では、おひさま会(保護者会)からの花の寄贈を受け、6月8日(水)に学年毎に花の日礼拝を行いました。前日には、年長児の子どもたちがアレンジメント作りに挑戦。お花を選び、好きな長さに切って、皆で自由に生けました。最初は、「ここを切っているの?」と心配しながら取り組んでいましたが、最後に完成した自分たちのアレンジ

メントを見て、「綺麗」と、うっとり眺めていました。牛乳パックで作った花器には、子どもたちが折った折り紙も飾りました。

毎年、水前寺幼稚園の年長児は、小学校訪問をしていましたが、コロナ禍でここ数年、小学校への訪問はできていませんでした。今年は出水南小学校の玄関まで訪問。校長先生に花を届けることができました。進学への期待も膨らんだ年長児の花の日礼拝でした。

職員 西本愛



科学 宇宙の話をしよう 宇宙探査の研究者とオンライン交流

4 | 16

6月11日(土)、カリフォルニア在住でNASAジェット推進研究所の研究者である小野雅裕さんを招いたオンライン交流会「宇宙の話をしよう」を開催。子どもたちを中心に日本やアメリカから約60名が参加しました。父親の影響で幼少期に宇宙に興味を持ち、現在は宇宙探査機のソフトウェア開発や地上管制、研究に携わる小野さん。火星探査機が火星に到着した際の映像や、探査機が撮影した写真を交えながら現在行われている調査の様子が紹介され、参加者は興味津々の様子でした。

小野さんは、「地球は小さい。その中に80億人が住んでいます。こんな小さな世界で争い合うのは愚かなこと。奪い合うのではなく、分け合って生きていかなければいけない」と子どもたちに語りかけるとともに、保護者に向けて「子どもたちに様々な経験をさせてあげてほしい」とメッセージを送りました。熊本YMCAでは子どもたちに大きな経験をしてもらいたいと願い、種子島宇宙センターを訪問するキャンプも企画しています。これからも宇宙の話をしよう!

職員 中村賢次郎



COM・PASSION II

おもいやりとやさしさ Vol.9

総主事 光永尚生



種は蒔かれている

YMCAの働きは「種を蒔く働き」
～一粒の種が、30倍、60倍、100倍に育つ～

プロ野球が好きな方は、オリンピックで活躍し、先日の交流戦でもMVPに輝いた、東京ヤクルトスワローズの村上宗隆さんのことはご存じかと思います。オリンピックの左中間へのホームランの時には、外野席の彼方に、横浜YMCA

の大きなサインボードが見えて、感動を覚えたものでした。彼は、2歳のころから熊本YMCAながみねファミリーセンターの体育英語幼稚園「ラッコクラス」にいられていました。当時の写真を見ると、今の人懐っこい笑顔がそのままに、園長である若いころの私やリーダーの皆さんと卒園式の写真の真ん中でにこやかに写られています。

YMCAの働きには、「一粒の種を蒔く働き」があると考えています。小さな種が蒔かれ、どんなどころに蒔かれても、いつかは育ち、波及すると思っています。YMCAの先達の一人に、J.Rモットさんというニューヨーク生まれの人がいます。彼は大学時代に学生YMCA運動でボランティアを推進し、伝道に力を入れ、日本を10回

訪問し、アジアには14回来訪。太平洋を渡ったのは100回以上でした。50年間のYMCA関連の勤務を経て、様々な活動に従事した事で、世界の国々から名誉学位や賞が与えられ、日本には関東大震災の見舞いや多くの文化的な貢献をしたことで勲章が授与されました。1946年にはノーベル平和賞を受賞しています。同賞の受賞者には、赤十字の創設に関わり、世界YMCA同盟創設にも尽力したアンリ・デュナンさんもいらっしゃいます。共通しているのは、どんな時にも、「深い祈り」を捧げていたことでした。

私たちのYMCAで蒔かれた種は、祈りの中で育ち、育てられるのです。平和な1日となるように、今日も祈りから始め、祈りの中で感謝と共に終わります。

Information 行こう 見よう 深めよう

8月7日 Sunday~

熊本YMCA学院 スペシャルオープンキャンパス

4 11

専門学校
×
体験

YMCA学院の魅力にふれることができるオープンキャンパスの拡大版。各学科の体験授業や先輩たちとの交流を通して、自分の将来について考えてみましょう。



回 8月7日(日)、18日(木)、26日(金)、27日(土)、28日(日) **スケジュール** 9:30~全体説明 10:00~学科体験 11:30~懇談会 12:00~個別相談会(希望者) 13:30~17:00学生スペシャル企画 場 YMCA本館(熊本市中央区段山本町4-1) 回 高校生以上 場 YMCA学院 Tel 096-353-6393

お申込みはWebで▶



学科	目指せる職業・資格など
一級・二級建築士をめざす 建築科	建築設計士・建築施工管理技士 インテリアデザイナー・住宅設計
東京YMCA国際ホテル専門学校連携 ホテル観光科	ホテル・観光・旅行 プライダルコーディネーター・事務・販売
日本医師会認定医療秘書養成校申請中 医療秘書科	医療秘書・医師事務作業補助・医療事務
スポーツ指導現場との連携 健康スポーツ科	スポーツインストラクター・健康運動実践指導者 フィットネストレーナー・介護予防運動指導者
指定保育士養成施設申請中 こども保育科	保育士・幼稚園教諭・保育教諭

7月24日 Sunday

えいごでたのしむ1日 ボルケーノキャンプ

4 15 16

英語
×
キャンプ

こどもえいごキャンプは多国籍の講師、スタッフボランティアとともに英語を使いながら思いやりと互いを尊重する心を育むことを目的としたキャンプです。



今年のテーマは「火山」。火山のしくみや地形に関わる様々な英語を学びます。

回 7月24日(日)

場 YMCA阿蘇キャンプ

回 年長~小学6年生 回 40名 場 YMCA在籍生9,200円/在籍生でない方 9,700円

お申込みはWebで▶



YMCAで楽しい夏を 夏休みプログラム

3 11

夏休み
×
体験

子どもたちの心と身体を育む夏休みプログラムの申込み受付中です。

スポーツスクール

場 みなみセンター(南区田迎)、ながみねファミリーセンター(東区長嶺南) 回 水泳、体操、ZUMBA kids(みなみセンターのみ)

※ZUMBA kidsとは今最も人気のフィットネスプログラム【ズンバ】から子ども用にデザインされたもの。エネルギー溢るダンスで楽しく体を動かして心身の成長を効果的に促します。



夏休みのお預かりサマースクール

場 みなみセンター(南区田迎) 回 宿題サポート、公園遊び、施設見学 回 第1期 7月25日~29日/第2期 8月1日~5日/第3期 8月15日~19日/第4期 8月22日~26日 ※月~金の各5日間コース

サマーキャンプも開催。詳細・お申込みはWebで▶



※公益財団法人熊本YMCAはすべての人々がYMCAのプログラムに参加できるように、参加費の減免制度を設けています。詳細はお近くのYMCAにお尋ねください。

回日時 場会場 回内容 回参加費 回定員 回参加条件 回持ち物 回対象 回主催 回締切 回申込 回問合せ 回その他

わたしと聖句



日本福音ルーテル神水教会
角本浩

詩編 139 編 11~12 節

「闇の中でも主はわたしを見ておられる。夜も光がわたしを照らし出す。」闇もあなたに比べれば闇とは言えない。夜も昼も共に光を放ち、闇も、光も、変わることはない。

世を照らす光

カール・セーガンという天文学者の書いた『コスモス』という本によると、私たちの住んでいる太陽系は、銀河系中心部から3万光年も離れたところにあるそうです。体にたとえると、伸ばした腕の先っぽ。そんな場所ですから、私たちが見ることで見える星は、せいぜい数千個です。一方、銀河の中心は、10億個の何百万倍の星が見えるのだそうです。だからそこは夜の明るい世界。セーガンさんは、もしもその銀河の中心部の惑星に何らかの生物がいたとしたら、この地球という星を見て「まあ、あんな暗い所に住んで、かわいそうな生き物だ」ということだろう、なんておっしゃっています。

冒頭に紹介した文章は、その地球という星で暮らす人の言葉です。

たとえ、暗い夜の闇の中であっても、神さまの眼差しが私たちを照らす。もちろん物理的なあかりも必要であり、大切なものですが、もっと大事なものは、こころを照らす光です。だって、朝や昼、太陽が照りつける光の中にも、心が暗くなっている時がありますから。そのような中で、「神さまはあなたを愛しておられる。」という愛が私たちを照らしてくれませんか。このひかりは、永遠に消えませんが、

銀河の果てで暮らす私たちは、どんな数の星の光も、月の光も、太陽の光もかなわないような「神の愛」という永遠のひかりで守られています。

次号は8・9月合併号として、8月下旬に発行します。

発行所/(公財)熊本YMCA
〒860-8739 熊本市中央区段山本町4-1
TEL 096-353-6397(代)
発行人/光永 尚生 編集人/辻 健太郎
定価60円 購読料は会費に含む

www.kumamoto-ymca.or.jp



Facebook

熊本YMCAの使命

共に生きる社会 生涯学習の推進 ボランティア活動
地球環境の保全 ウェルネス活動 平和な世界

2022年度基本聖句

イザヤ書 40章31節
主に望みをおく人は新たな力を得 鷲のように翼を張って上る。
走っても弱くはなく、歩いても疲れない。